

八尾市立歴史民俗資料館運営委員会会議録

委員会名：令和4年度 第1回 八尾市立歴史民俗資料館運営委員会

開催日時：令和4年7月1日（金）10：30～11：30

開催場所：八尾市立歴史民俗資料館 2階 会議室

参加委員：（委嘱委員8名中5名出席）森田克行委員、亀甲知之委員、角倉泰子委員、川村美由紀委員、浅見緑委員

欠席委員：植村和代委員、藤井弘章委員、黒田一充委員

事務局：南観光・文化財課長、西澤観光・文化財課長補佐、観光・文化財課係長 藤井

オブザーバー：小谷利明館長・樋口めぐみ係長（八尾市立歴史民俗資料館指定管理者（公財）八尾市文化財調査研究会）

傍聴者：なし

資料：令和3年度 八尾市立歴史民俗資料館事業報告

<開会 あいさつ（事務局）>

<委員長および副委員長の選任について>

委員互選の結果、森田委員を委員長に、植村委員を副委員長に（任期：令和6年5月31日まで）選任した。

（委員長就任あいさつ後、案件について委員長進行のもと、案件について意見交換が行われた。）

<令和3年度の事業報告等について>

【事務局より説明（「令和3年度事業報告について」）】

資料及び館報をもとに説明（令和2年度の実績と比較しながら）

・新型コロナ感染症拡大防止による臨時休館などで、企画展の開催時期の変更やイベントの休止などがあったが、感染対策のもと、定員を限定してイベント等に取り組んだ。聖徳太子没後1400年を記念した展示や講演会を開催し、好評であった。

特別展示「八尾の鉄道 開通ものがたり」について

〔担当学芸員の意見〕

・図録の売り上げが通常は来館者の1/10程度の購入であるのが、1/3が購入し、ほぼ完売になるなど、好評であった。ネット上に展示の情報が拡散するなど、来館者層の拡大につながったとのこと。

・コロナ禍の中、研究活動や展示交渉等が難しかったが、来館者から今後もやりませんか、展示と違う関連資料を所有しているなどの市民の意見があった。

(委員意見)

- ・鉄道関連の展示ということで、JRや近鉄の後援はなかったようだが、近鉄やJR、大阪メトロなど通常よりも多い駅張りのポスターや増し刷りなど広報活動の充実が見られて、良い取り組みである。
- ・鉄道の展示は、一般的にも好評な展示で、来館者が見込まれる。

(その他委員意見)

- ・コロナ禍で気づいたことはないか。
→(担当学芸員)市民との協働については、高齢者が多いことから、これまで構築してきた市民とのつながりが途切れた感じがした。つなぎ止めが難しく、再起動が必要と感じている。
- ・YouTubeの閲覧者数はどうか？
→配信画像は「江戸時代の木綿取り引き」のみで、閲覧者数はあまり伸びていない。館内でも動画提供しており、今後充実を図っていきたい。
- ・コロナ禍で事業の縮小や中止もあったが、事業の内容は充実している。
- ・市民協働の内容は、回数なども示していただければ、具体的に分かりやすい
- ・由義寺など最新の研究成果等を発表いただく機会があればありがたい。

【令和4年度の事業計画の報告】

- ・前回の委員会が書面開催であったため、令和4年度の事業計画の特別展「八尾の古代氏族―物部氏―」や弥生文化財博物館とのコラボ展示など、特徴的な取り組みを説明した。

以上